

母子家庭の母の正規就業を阻む要因

高田しのぶ

要約

母子世帯の年収が低いことが知られているが、一つの要因は、母子家庭の母親が非正規就業であることが多いからである。本稿では、労働政策研究・研修機構「母子家庭の母への就業支援に関する調査 2007」を用い、母子家庭の母の就業選択に関する分析を行なった。その結果、(1)すべての母親を対象とした推計において准看護師、介護福祉士、簿記の資格、PC文書作成能力があると正社員就業確率を高める、(2)4-6歳の子供がいることは正社員就業確率を低め、非正規雇用確率を高める、(3)親族との同居は就業選択に影響を与えない、(4)他の世帯収入は非正規就業確率を低めるがその大きさは小さい、(4)末子7歳以上にサンプルを限定した推計では、すべての母親を対象とした推計と比べ、有意になった資格が多く、また、その限界効果も大きくなった、(5)母子家庭後に取得した資格の方が、正社員就業に与える限界効果は大きい、ということが明らかになった。

キーワード

母子家庭資格、保育

JEL classification J2